

組織名	彩の国さいたま人づくり広域連合
-----	-----------------

1 組織概要

所在地	さいたま市北区土呂町 2-24-1
TEL	048-664-6685
FAX	048-664-6667
URL	http://www.hitozukuri.or.jp/
e-mail	jinzai03@hitozukuri.or.jp
設立	1999年5月14日
設置都市等	埼玉県及び埼玉県の全市町村(63市町村)
代表者	広域連合長 田中 暄二

2 組織動向

(1) 沿革	
設置経緯	<p>平成2年 市町村職員広域研修機関の設置について、市長会・町村会・県で検討開始</p> <p>平成5年 埼玉縣市町村職員研修検討協議会が発足</p> <p>平成8年 「埼玉縣市町村職員研修センター(仮称)基本構想(素案)」を策定</p> <p>平成10年 取組体制については広域連合が適当との方向性が出される</p> <p>平成11年 県及び県内全市町村の議会において、広域連合設立に関する議案を可決 自治大臣設立許可(5月14日) 業務開始(7月1日)</p>
見直しの動向	
役割(2016年時点)	<p>①人材開発事業 ・政策研究の実施・支援 等 ・埼玉県職員及び埼玉県内市町村職員の研修</p> <p>②人材交流事業 ・民間企業等への職員派遣 ・市町村職員中央研修機関等への派遣支援</p> <p>③人材確保事業 ・職員採用合同説明会の開催 ・市町村職員採用情報の共同発信等</p>
(2) 組織体制	
設置形態(択一)	<p><input type="radio"/> 1 自治体の内部組織</p> <p><input type="radio"/> 2 常設の任意団体(提言等を行う会議体型の団体も含む)</p> <p><input type="radio"/> 3 公益法人(財団法人・社団法人)</p> <p><input type="radio"/> 4 大学の附置機関</p> <p><input checked="" type="radio"/> 5 広域連合</p> <p><input type="radio"/> 6 その他(具体的に:)</p>
常勤職員数	29人
うち常勤研究員数	0人
非常勤研究員数	0人 ※毎年度、県・市町村等から研究員を公募
専門性確保に関する特徴(複数選択可)	<p><input type="checkbox"/> 1 専門的な知識を有した研究員の採用</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 2 外部有識者の活用(1を除く)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 3 大学・非営利活動法人等と連携した研究の実施</p> <p><input type="checkbox"/> 4 設置市の企画部署と連携した研究の実施</p> <p><input type="checkbox"/> 5 設置市の関係部署と連携した研究の実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 6 その他(具体的に: 県・市町村・企業・NPO及び大学等の協働による「産民学官・政策課題共同研究」を行い、産民学官それぞれの主体が持つ人材や情報、ノウハウ等を活用、組み合わせ、地域課題の解決に真に役立つ政策提言を行っている。研究テーマについて専門性を持つ外部有識者を研究コーディネーターに迎えるとともに、研究員として県・市町村の関係職員や民間企業、大学、NPOなどが参加(無報酬)し、専門性を意識した研究を実施している。)</p> <p><input type="checkbox"/> 7 特に行っていない</p>
庶務体制	当広域連合の政策研究担当(4人)が事務局として政策研究に係る事務を処理
市民参加、外部連携	研究員として県・市町村の関係職員のほか民間企業、大学、NPOなどが参加(無報酬)し、専門性を意識した研究を実施している。

(3)会計		
会計規模※人件費・間接費(オフィス賃借料、水道光熱費等)は含まない		
2016年度予算	10,854 千円	
2015年度決算	9,877 千円	
2014年度決算	6,631 千円	
自治体の内部組織以外の団体の場合の事業活動収入の主な内訳 (多い順に選択)	順位	収入種別
	1位	7. その他(具体的に:彩の国さいたま広域連合政策研究基金からの繰り入れ)
	2位	
	3位	
	4位	
自治体の内部組織の場合の事業活動収入の主な内訳 (多い順に選択)	順位	収入種別
	1位	
	2位	
	3位	
	4位	

3 活動動向

(1)活動実績		
	調査研究名 (国の法令により義務づけられている調査で、自治体の政策の形成や問題の解決のために活用しないものは除く)	調査研究の概要 (研究成果を閲覧できる機関(国会図書館等)やURLがある場合は末尾に記入)
2016年度に実施した調査研究 (1件につき1行で記入してください。)	「サステナブルタウン」を目指して ~超高齢社会の包括的タウンマネジメント~	超高齢社会に起因する問題が先鋭的に現れている郊外ニュータウンをフィールドに、主に建築・都市政策と医療・福祉政策の統合について研究。 具体的な5つの地域に介入しながら実践的に調査を行い、調査的に実践を行う「デザインリサーチ」及び「アクションリサーチ」の手法を採り、踏み込んだ提案を行った。 http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/H28/H28sustainable-town.pdf
	多様な働き方「埼玉スタイル」の推進	県民一人ひとりの個性と多様性を尊重し、個々の希望が実現させられるような「多様な働き方」について研究。政策のターゲットを「若者」「子育て世代」「障害者」「高齢者」の4つに定め、それぞれの「働きたい」「働きやすい」「働いてほしい」を叶える政策の検討・提案を行った。 http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/H28/H28work-style.pdf
過去3年間の研究実績 (成果物ベース)	<2015年度> ○人口減少社会突破戦略 ~2040年 埼玉県民705万人の安心に向けて~ ○「埼玉県の空き家」の課題パターン抽出とその解決策の提言	
	<2014年度> ○地域ブランドプロモーション ~Road to 2020 オリンピック・パラリンピック ○ビッグデータ活用戦略 ~「宝の山」の活かし方~	
	<2013年度> ○観光資源としての農業の可能性 ~久喜市をフィールドにして~ ○自治体FM戦略 ~公共施設管理の最適化に向けて~	
定期刊行物	○政策課題共同研究報告書(年1回) ○政策情報誌「Think-ing」(年1回) ○政策情報メルマガ「eシンキング」(年4回程度)	

(2) 活動のマネジメント状況	
ア テーマ決定 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 1 設置市からの要請 <input type="checkbox"/> 2 外部有識者等からの助言・示唆 <input type="checkbox"/> 3 貴団体・組織で、設置市の総合計画等に明記された重要課題から選択 <input checked="" type="checkbox"/> 4 貴団体・組織で自ら発案(3を除く) <input checked="" type="checkbox"/> 5 その他(具体的に:構成団体(埼玉県及び県内全市町村)の各所属及び職員個人から、研究テーマを募集している。)
イ 情報発信 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 設置市の議員や幹部職員に、報告や提言を行う <input checked="" type="checkbox"/> 2 設置市の関係部署に、報告や提言を行う <input checked="" type="checkbox"/> 3 設置市の庁内の広範囲に、成果物を配布する <input checked="" type="checkbox"/> 4 報告会を実施する <input checked="" type="checkbox"/> 5 日常的活動を、HP・メールマガジン・ニュースレター等で周知する <input checked="" type="checkbox"/> 6 その他(具体的に:①研究のスタートに当たり、オープニングセミナーを開催し、研究について広く周知をしている。②研究報告書を頒布しているほか、報告書の内容を当広域連合ホームページに掲載している。③成団体から提案のあったテーマの研究については、当該構成団体の首長等に研究成果をプレゼンしている。) <input type="checkbox"/> 7 特に行っていない
ウ 活動の評価とその反映 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 1 設置市の行政評価制度により評価を受けている <input type="checkbox"/> 2 運営委員会等、貴団体・組織の運営に関わる機関から評価を受けている <input type="checkbox"/> 3 外部有識者から評価を受けている(2を除く) <input checked="" type="checkbox"/> 4 報告会・アンケート等の機会を設けて、評価を受けている <input type="checkbox"/> 5 その他(具体的に:) <input type="checkbox"/> 6 特にそういう機会はない

4 特記事項

研究員の業務分担	研究員同士の話し合いにより、分科会の所属や作業の分担などを決めている。
研究員の専門性育成の手立て	研究員は、次項のとおり公募等により決定しているため、毎年異なる。そこで、研究コーディネーターへの外部有識者の招聘や、研究会における専門家によるレクチャーの実施、中間報告会の開催による関係課から助言を得られる機会の設定など、研究を進めるに当たり研究員が専門的な知見等に十分触れられるような環境を整えている。
研究員のキャリアパス等	研究員は、次のとおり公募等により決定している。 <ul style="list-style-type: none"> ・県及び市町村 県の各所属及び県内市町村に対して公募している。 ・企業・NPO・大学等 成果発表会等に会場した企業等をはじめ政策研究に関心を持っている団体に参加を呼びかけている(研究参加は無報酬)。
その他	・県、市町村、企業、NPO及び大学等による「産民学官」協働の研究を行っている。